

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

勝池レポート      アジア資産運用アドバイザー   勝池和夫

「新鮮な卵は少ない」

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

投資の世界に、「卵を一つのカゴに盛るな」という格言があります。卵を一つのカゴに盛ると落としたときに全部割れてしまうので、そのリスクを避けるために複数のカゴに分けて盛りなさいという分散投資のアドバイスですね。しかし、これは新鮮な卵が容易に手に入る時代の話であって、これから始まりそうな新鮮な卵（有望な投資先）が見つかりにくい時代には合わない格言だと思います。もう沢山のカゴは要りません。

私なら、「卵はカゴに盛る前に慎重に選びなさい」と言います。その新鮮な卵の選び方の一つとして、下の写真のように卵を食塩水に浮かべてみることもできます。卵は鮮度が落ちると、卵の中の空気の部分が大きくなり水に浮くようになるからです。



では投資国の新鮮度（有望度）はどうして判断したら良いのでしょうか？その目安になるのが下表にある主要国の都市化比率です。この比率が 60%を超えると投資対象国の新鮮度は落ちてくるようです。卵であれば水に浮く状態に近づきます。

この説に従いますと、G7 の先進国はもとより、BRICS 各国でも、ASEAN の主要国でも、ほとんどの国の投資先としての鮮度は落ちています。一方で、ご覧のように右端のインドの比率は 36%と圧倒的に低く、つまり同国は世界に残された数少ない新鮮な卵（長期的な経済成長が期待できる国）と考えられます。

皆さんの新 NISA のカゴに、このプリプリとした卵はいかがですか？

